

令和2年9月11日 午前10時から
区役所8階 特別会議室

令和2年度第2回 足立区環境審議会資料

<審議事項>

審議事項1	令和元年度環境基本計画の指標の進捗状況について	・・・	1
審議事項2	環境基本計画の指標の課題と見直しの方向性について	・・・	8
審議事項3	足立区における地域気候変動適応計画の方向性について	・・・	10
審議事項4	足立区における食品ロス対策事業について	・・・	11

<報告事項>

報告事項1	令和元年度の区施設におけるCO ₂ 排出量、ごみ量について	・・・	13
報告事項2	「地球環境フェア2020」と「あだち環境かるた大会」の中止について	・・・	15
報告事項3	3R・食品ロス削減推進月間パネル展示等について	・・・	16
報告事項4	公害苦情相談と環境調査結果について	・・・	18

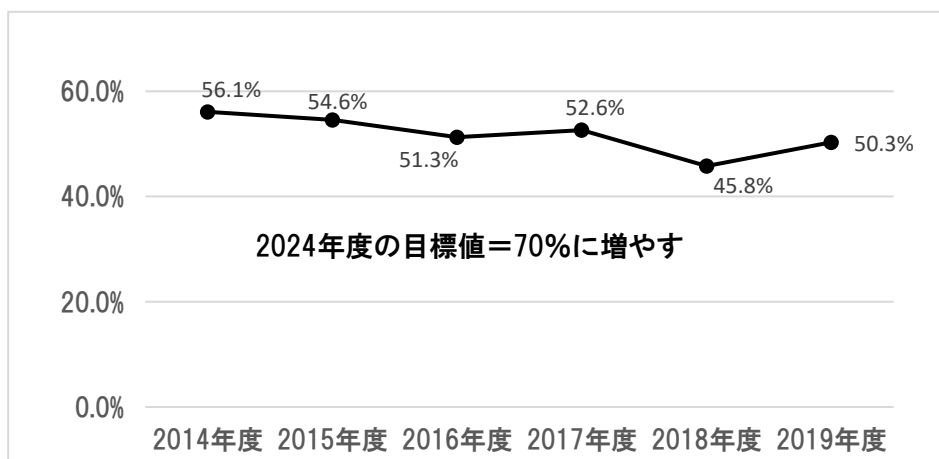
令和2年度第2回足立区環境審議会資料

件名	令和元年度環境基本計画の指標の進捗状況について				
所管部課名	環境部環境政策課				
内容	<p>環境基本計画の令和元（2019）年度の指標の数値がまとまったのでその概要を報告する。なお、目標年度や過去の数値と比較しやすくするため、以下、西暦で表記する。</p> <p>1 2019年度の実績</p> <p>太字：2019年度実績がすでに目標数値に到達したもの</p>				
		指標と単位（◆：低減目標）	2018年度 実績	2019年度 実績	2024年度 目標
		柱1 地球温暖化・エネルギー対策			
	1-1	省エネを心がけている人の割合（%）	45.8	50.3	70.0
	1-2	区内の再生可能エネルギーの導入容量・累計（kW）	36,600	38,017	36,000
	1-3	◆熱中症で搬送される患者数（人）	536	406	160
		柱1に兼ねる地球温暖化対策実行計画で定める中長期的な削減目標 ※当該年度に判明した2年前の数値（2019年度は2017年度の数値）			
	1-4	区内のCO ₂ 排出量（t）	218.7万	220.2万	197万
		柱2 循環型社会の構築			
	2-1	◆1人1日あたりの家庭ごみ排出量（g）	530.5	533	470
	2-2	資源化率（%）	19.08	19.05	27.0
	2-3	◆区内のごみ量（t）	177,724	178,658	158,400
		柱3 安全・安心で快適なくらしの確保			
	3-1	◆工場等に対する公害苦情相談件数（件）	376	348	232
	3-2	地域で自主的に美化活動をしている団体数・累計(団体)	375	384	400

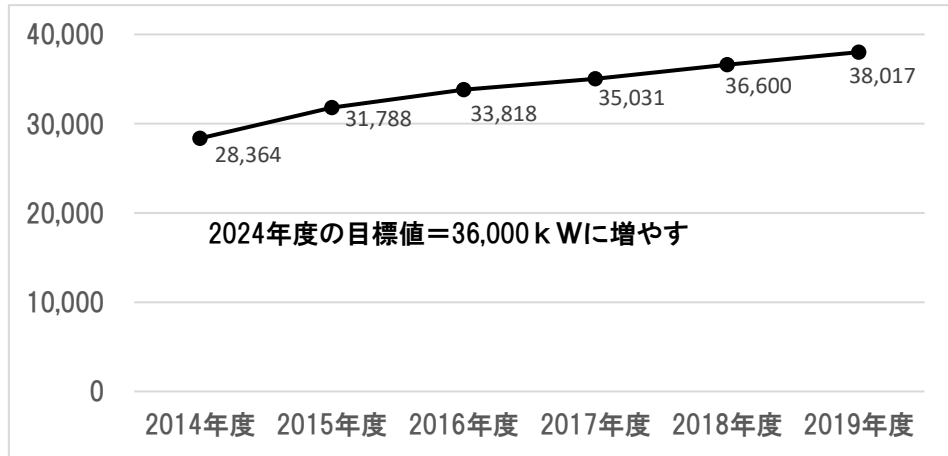
指標と単位		2018年度 実績	2019年度 実績	2024年度 目標
柱4 自然環境・生物多様性の保全				
4-1	生物とふれあう事業の 参加者数（人）	342,673	313,590	330,600
4-2	区民参加型の生物調査の 参加者数（人）	198	152	200
4-3	樹木被覆率（%）	9.4	9.4	8.7
柱5 学びと行動のしくみづくり				
5-1	環境に配慮した製品を 選んで使う人の割合（%）	10.3	10.5	25
5-2	環境学習プログラムに参加 し、修了した人の数・累計(人)	720	857	2,000
5-3	エコ活動ネットワーク足立 の登録団体が実施した自主 的な環境保全活動数（回）	162	146	250

2 指標の過去5年間の推移

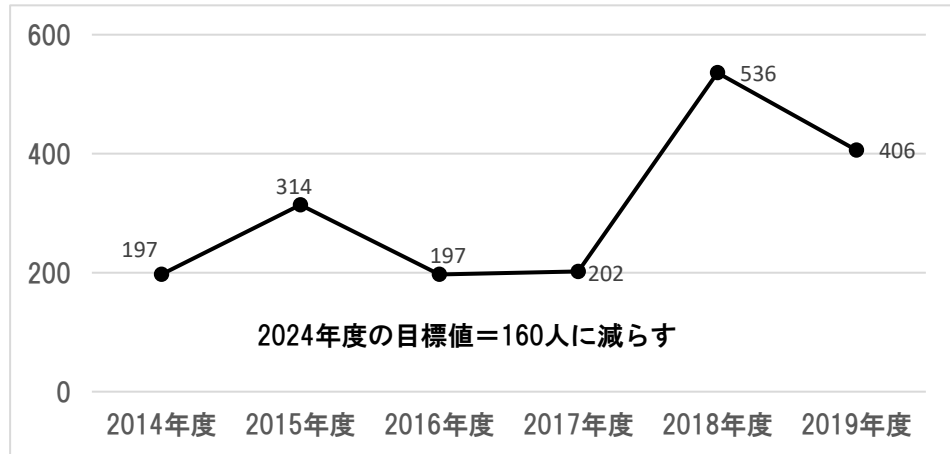
1-1 省エネを心がけている人の割合



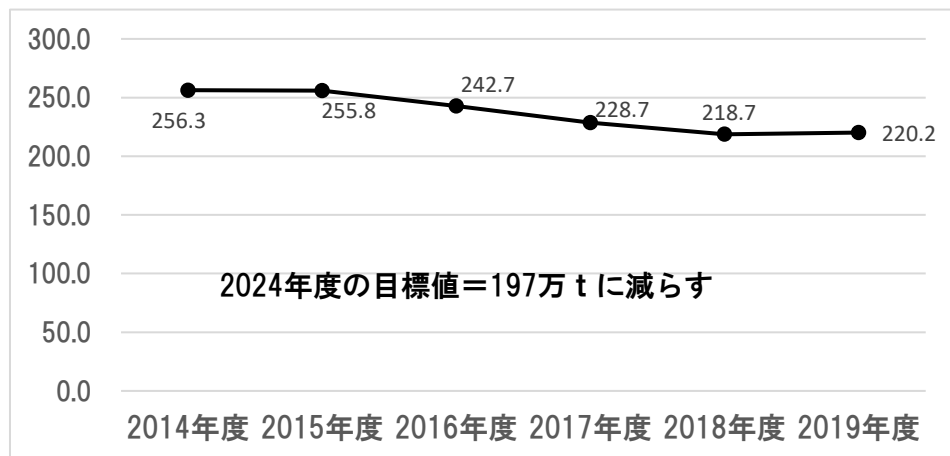
1-2 区内の再生可能エネルギーの導入容量・累計（単位：kW）



1-3 熱中症で搬送される患者数（単位：人）

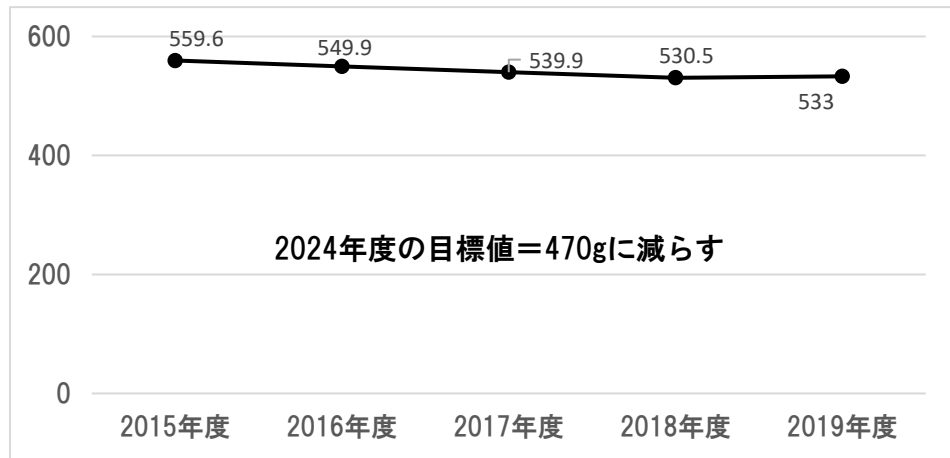


1-4 区内のCO2排出量（単位：万t）



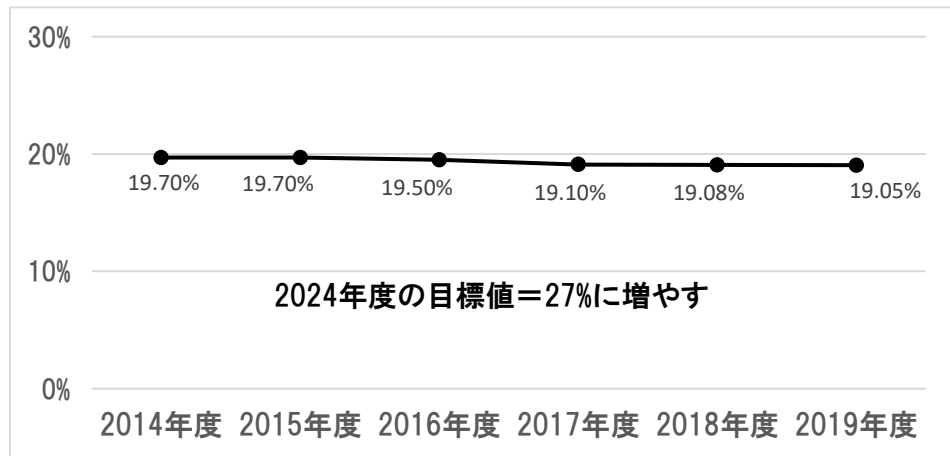
要因分析：冬の気温が例年より低く、暖房・給湯の需要が増

2-1 1人1日あたりの家庭ごみ排出量（単位：g）



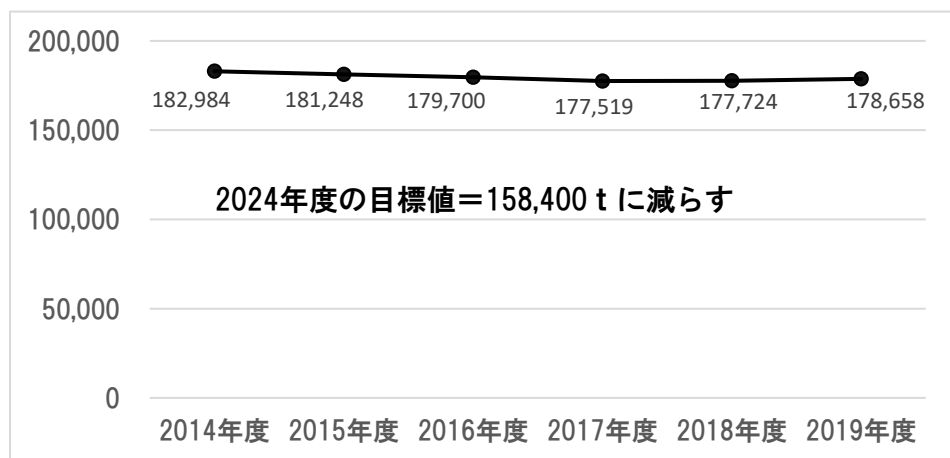
要因分析：外出自粛等による在宅の増

2-2 資源化率



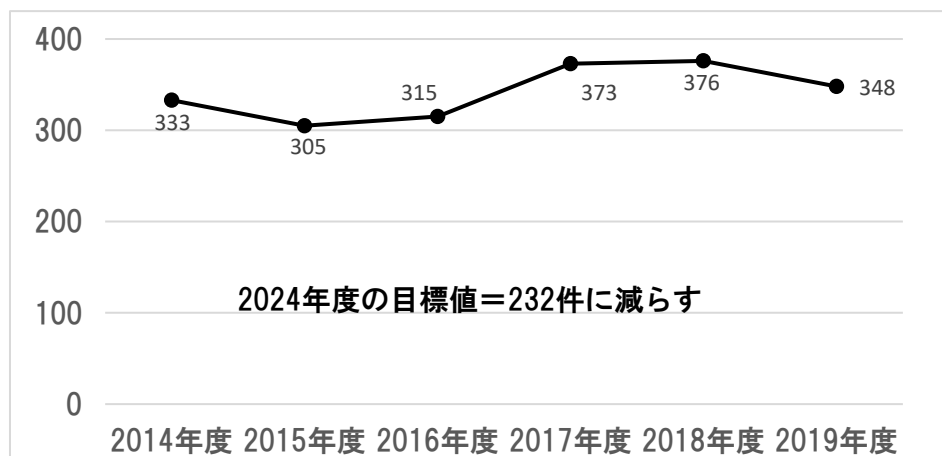
要因分析：新聞・雑誌等の古紙類の減

2-3 区内のごみ量（単位：t）

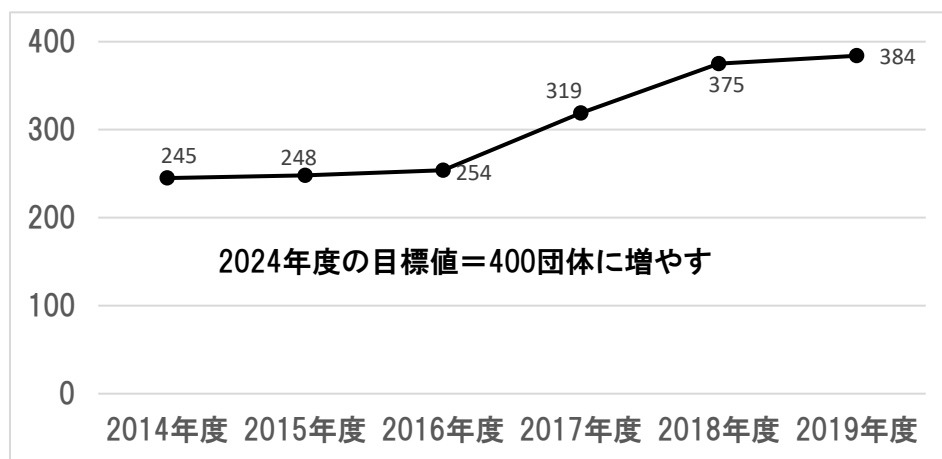


要因分析：外出自粛等による在宅の増

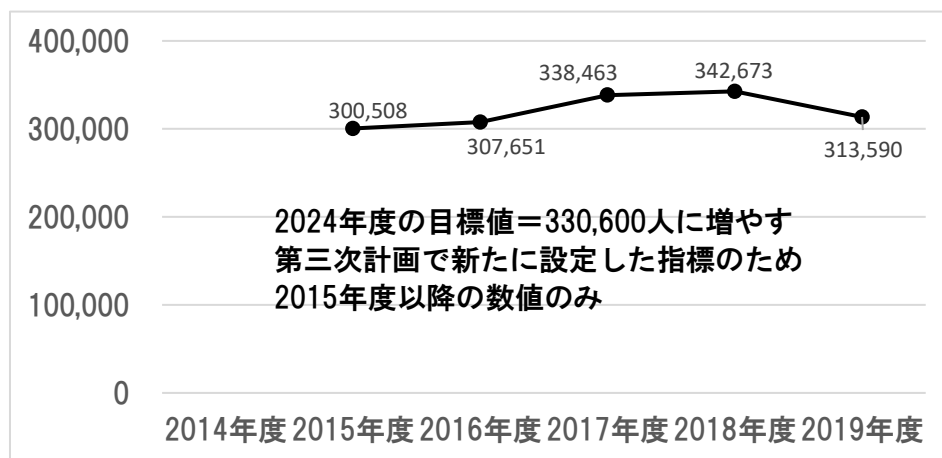
3-1 工場等に対する公害苦情相談件数（単位：件）



3-2 地域で自主的に美化活動をしている団体数・累計（単位：団体）

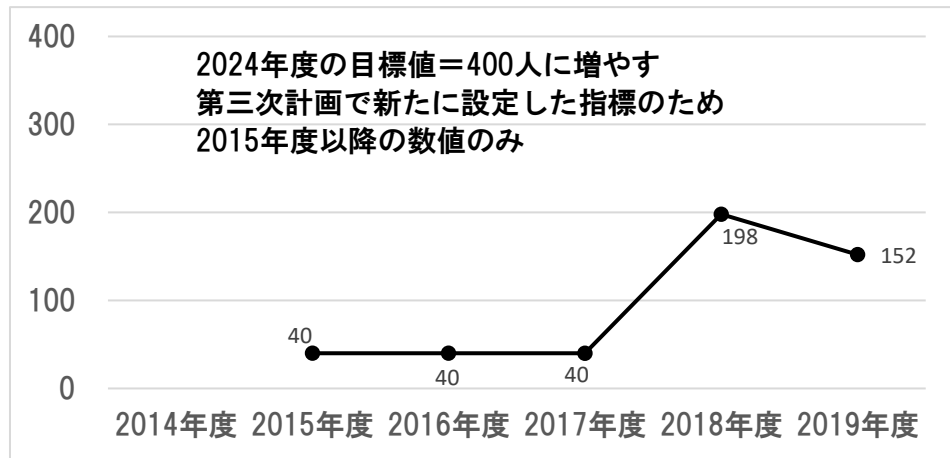


4-1 生物とふれあう事業の参加者数（単位：人）



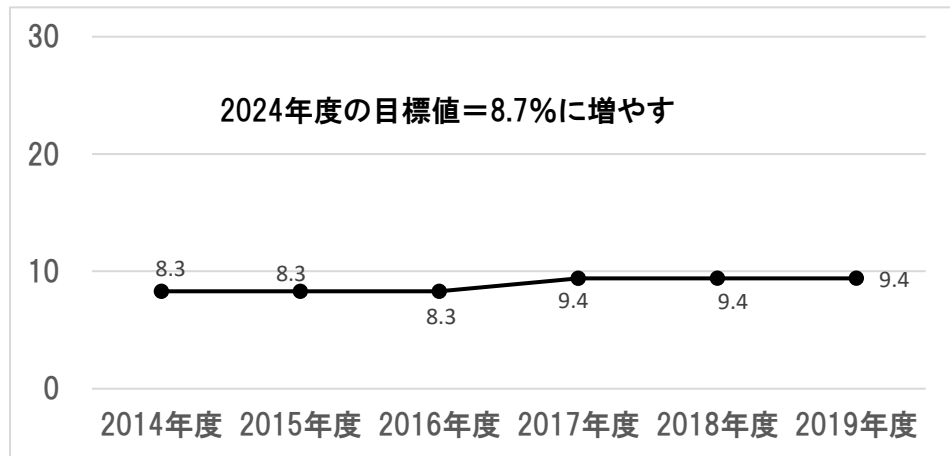
要因分析：新型コロナウイルス感染症対策の施設休園による減

4-2 区民参加型の生物調査の参加者数（単位：人）

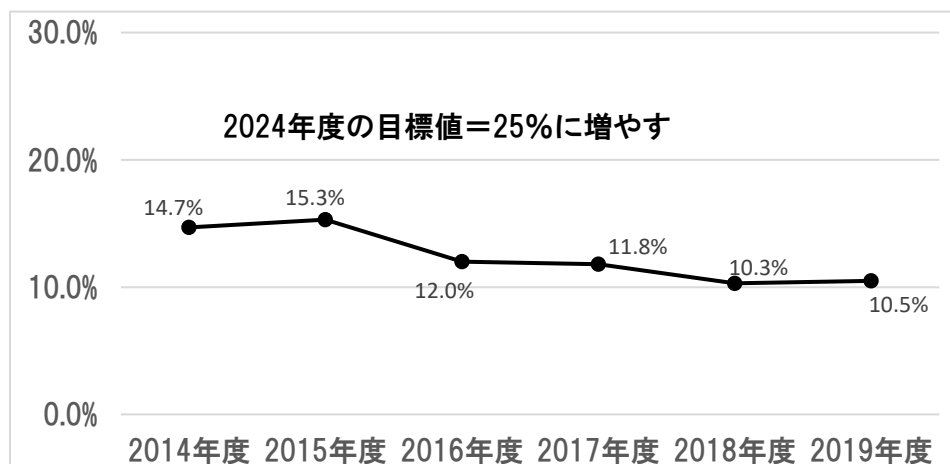


要因分析：雨天による参加者の減

4-3 樹木被覆率



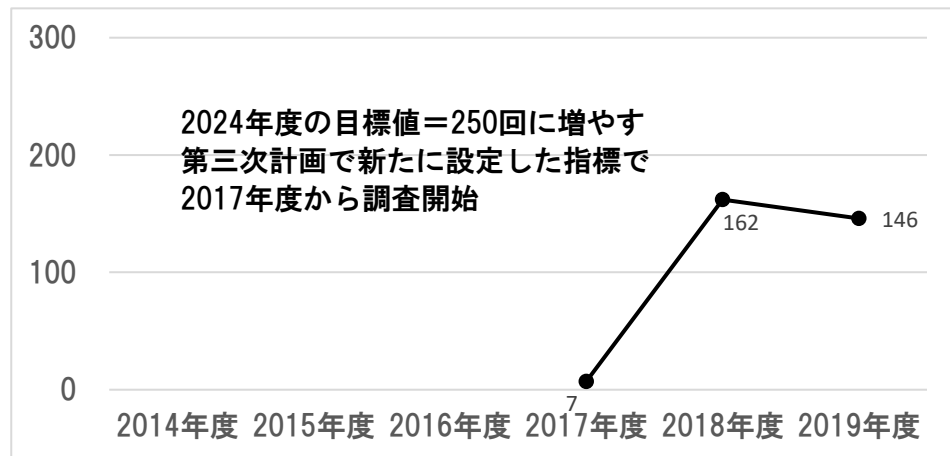
5-1 環境に配慮した製品を選んで使う人の割合



5-2 環境学習プログラムに参加し、修了した人の数・累計（単位：人）



5-3 エコ活動ネットワーク足立の登録団体が実施した自主的な環境保全活動数（単位：回）



要因分析：新型コロナウイルス感染症対策による活動数の減

3 今後の方針等

計画の進捗状況は、庁内に周知するとともにホームページ等で情報発信し、区民・事業者等にも働きかけ、目標達成に向けて取り組んでいく。

令和 2 年度第 2 回足立区環境審議会資料

件 名	環境基本計画の指標の課題と見直しの方向性について								
所管部課名	環境部環境政策課								
	<p>2019年度の進捗状況を踏まえ、現時点での指標の課題を示し、今後の見直しの方向性についてご意見をいただきたい。</p> <p>1 すでに目標値に達したことによる数値の見直し</p> <p>(1) 1-2 再生可能エネルギーの導入容量</p> <table border="1"> <tr> <td>現在の目標値</td> <td>36,000 kW</td> </tr> <tr> <td>2019年度末実績</td> <td>38,017 kW</td> </tr> </table> <p>同じ指標を使っている足立区基本計画とあわせ、目標値を43,000 kWに上方修正する。</p> <p>(2) 1-4 区内のCO₂排出量 再生可能エネルギーの導入容量の上方修正にあわせて見直す。 また、環境省が提唱し、すでに東京都も表明した「地方公共団体における2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」を視野に入れ、2024年度の排出目標を設定する。</p> <p>(3) 4-3 樹木被覆率</p> <table border="1"> <tr> <td>現在の目標値</td> <td>8.7%</td> </tr> <tr> <td>2019年度末実績</td> <td>9.4%</td> </tr> </table> <p>2020年11月に策定される新たな緑の基本計画と整合を図り、2024年度の目標数値を設定する。</p> <p>2 一般廃棄物処理基本計画との整合による見直し</p> <p>2018年度に策定した一般廃棄物処理基本計画で、資源化率を下方修正したため、これにあわせて環境基本計画の目標値を下方修正する。</p> <p>3 社会経済状況の変化による指標の課題</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症対策の影響 イベントなどの開催が難しいため、参加者数や開催回数目標について、指標の変更や定義の見直し、目標数値の修正を検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4-1 生物とふれあう事業の参加者数 ・ 4-2 区民参加型生物調査の参加者数 ・ 5-2 環境学習プログラムに参加し、修了した人の数 ・ 5-3 エコ活動ネットワーク足立が実施した自主的な環境保全活動数 	現在の目標値	36,000 kW	2019年度末実績	38,017 kW	現在の目標値	8.7%	2019年度末実績	9.4%
現在の目標値	36,000 kW								
2019年度末実績	38,017 kW								
現在の目標値	8.7%								
2019年度末実績	9.4%								

(2) プラスチックごみ収集方法の変更

環境省・経済産業省がプラスチックごみの一括回収と資源化を表明した。区は現在、方法やスケジュールを検討しており、計画の目標年度である2024年度のごみ量と資源化率に影響が出ることが見込まれる。

(3) 「新しい生活様式」の考慮

外出の自粛やテレワーク等移動の減少や在宅率の増加により、家庭でのエネルギー使用量、ごみ量の増加が見込まれる一方、業務・運輸部門のエネルギー使用量や事業系ごみ量の減少が見込まれる。

4 足立区基本計画の指標と連動した5-1の指標の見直し

足立区基本計画の「地球温暖化対策の推進」において、環境への意識と行動を問う新たな指標を調整している。これを受け、環境基本計画においても、5-1の指標を見直すことを検討している。

(1) 現行の5-1の指標

世論調査の環境のために心がけていること（複数回答可）の中から、「環境に配慮した製品を選んで使う」を選択した人の割合

(2) 新たな指標案

世論調査で、将来の地球環境への影響が少なくなるよう行動する必要があると答えた人の割合

世論調査の設問案

将来の地球環境と私たちの行動について、あなたの考えに最も近いものを次のア～オの中から一つ選んでください。

ア 将来どうなるかわからないことのために行動するつもりはない。

イ 将来の環境は将来の人々の問題なので、特に関心がない。

ウ 将来の環境が心配なので、極力影響が少なくなるよう行動する必要がある。

エ 将来の環境は心配しているが、どう行動すれば良いかわからない。

オ 将来の環境は心配しているが、科学や技術革新で解決すると思うので、無理に行動しなくてもよい。

5 今後のスケジュール

現行計画の施策群と指標（別紙1）については、今後の計画の見直しにあわせて整理し、新型コロナウイルス感染症の動向や社会経済情勢を踏まえ、来年の夏前には新たな指標と目標数値を確定させる。

令和2年度第2回足立区環境審議会資料

件名	足立区における地域気候変動適応計画の方向性について
所管部課名	環境部環境政策課
	<p>1 足立区で想定される気候変動の影響（別紙2）</p> <p>2 足立区における気候変動影響の評価（案） 国は、重大性、緊急性、確信度の観点から7分野の気候変動影響を評価し、都は都内の気候変動影響について分野ごとに整理している。これらを参考にして、区の地域特性を考慮し、区の評価案として、最優先を★、準ずるものを☆でまとめた。（別表1）</p> <p>3 足立区における気候変動適応計画の構成（案）</p> <p>（1）区域の特徴や将来の予測</p> <p>（2）気候変動適応計画が目指す姿</p> <p>（3）優先的に取組む分野と具体的な適応策（目標と指標）</p>

令和 2 年度第 2 回足立区環境審議会資料

件 名	足立区における食品ロス対策事業について																		
所管部課名	環境部ごみ減量推進課																		
	<p>1 これまでの経緯</p> <p>2015年に国連においてSDGsが採択され、食品ロス削減について国際的な機運と区民の関心が高まったことを受け、地球環境フェア2016にてフードドライブを実施し、食品ロス対策の取り組みを開始した。</p> <p>2 2020年度食品ロス対策事業の概要</p> <p>(1) 常設の回収窓口 ごみ減量推進課、足立清掃事務所、あだち再生館、生涯学習センター、花畑地域学習センターの5か所</p> <p>(2) 食品の活用 NPO活動支援センターやフードバンク（セカンドハーベスト・ジャパン）を通じて必要とする団体や施設へ届けている。</p> <p>(3) 支援の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施を希望する団体に、のぼり旗、はかり、折りたたみコンテナを貸し出し ・ 各種団体とNPO活動支援センターやセカンドハーベスト・ジャパン等との橋渡し <p>(4) もったいないレシピ（予定） フードドライブで寄付されることが多い食品を使ったレシピ集を作成し、SNS等で情報発信を行う。</p> <p>フードドライブ事業実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> <th>2019</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回収した個数（個）</td> <td>1,282</td> <td>3,607</td> <td>1,471</td> <td>1,591</td> </tr> <tr> <td>回収した重さ（kg）</td> <td>313.31</td> <td>497.19</td> <td>427.04</td> <td>410.95</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 課題</p> <p>(1) 直接廃棄の削減 可燃ごみに占める直接廃棄（食品を買った時の状態でそのまま捨てている）の割合は、食品ロス啓発事業を開始した2016年度と、2019年度を比較しても同じ3.6%であり、対策の効果が表れていない。</p>				年 度	2016	2017	2018	2019	回収した個数（個）	1,282	3,607	1,471	1,591	回収した重さ（kg）	313.31	497.19	427.04	410.95
年 度	2016	2017	2018	2019															
回収した個数（個）	1,282	3,607	1,471	1,591															
回収した重さ（kg）	313.31	497.19	427.04	410.95															

(2) 区民意識の底上げ

2019年度の世論調査では、「食品ロス」の認知度は約9割だが、「食品ロス削減のために心がけていること」の各項目は数値が低く、「知っている」ことを「行動に移す」に繋げていく必要がある。

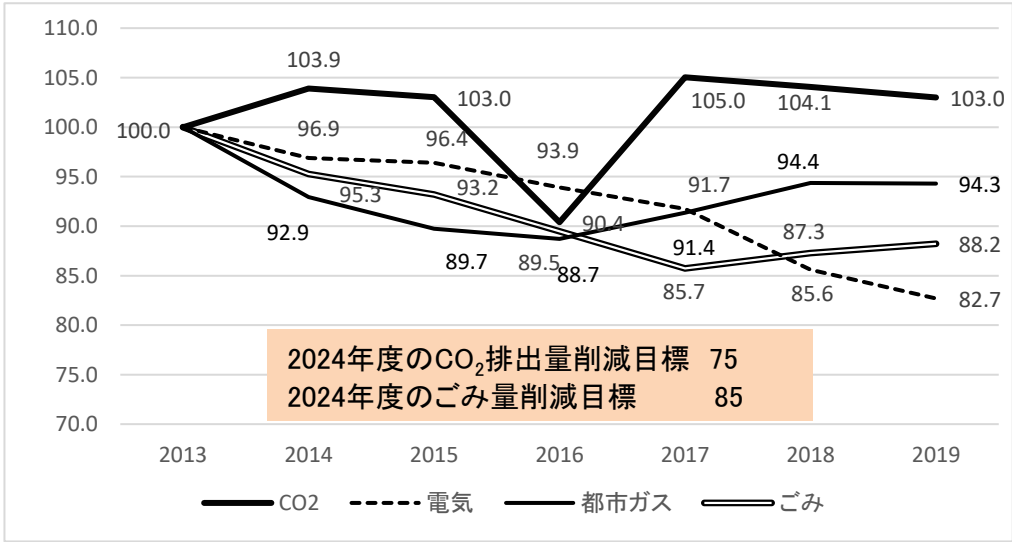
2019年度世論調査結果

あなたは「食品ロス」という言葉を知っていますか。	
知っている	87.4%
知らない（初めて聞いた）	10.8%
（「知っている」とお答えの方）あなたが、食品ロス削減のために心がけていることは何ですか。 （○はあてはまるものすべて）	
残さずに食べるようにしている	75.7%
外食時に食べられる分だけ注文する	57.5%
料理を作りすぎない	47.7%
買い物の前に必要なものをメモに書く	44.4%
買い物の前に冷蔵庫の在庫をチェックする	43.4%
大根の葉やキャベツの芯など棄てるものがないよう調理を工夫する	26.5%
買い物の際、棚の手前に陳列された食品から取る	9.3%
特に心がけていることはない	3.9%

(3) 事業系食品ロスの実態把握

集積所に排出される小規模事業者の調査にとどまっており、その他の事業系一般廃棄物および食品製造業等から排出される産業廃棄物等の実態把握に至っていない。そのため、事業系一般廃棄物の総合的な調査および産業廃棄物については東京都と連携して調査する必要がある。

令和2年度第2回足立区環境審議会資料

件名	令和元年度の区施設におけるCO ₂ 排出量、ごみ量について																																																												
所管部課名	環境部環境政策課																																																												
内容	<p>令和元（2019）年度の区施設におけるCO₂排出量、ごみ量の実績がまとまったので、その概要を報告する。</p> <p>なお、足立区公共施設地球温暖化対策推進実行計画（以下「実行計画」という。）の削減目標と比較しやすくするため、以下、西暦で表記する。</p> <p>1 対象施設 本庁舎、区民事務所、住区センター、生涯学習・スポーツ施設、福祉事務所、保健センター、小中学校、保育園、区道の街路灯など</p> <p>2 2019年度のCO₂排出量、ごみ量、電気・都市ガス使用量</p> <table border="1" data-bbox="384 869 1374 1133"> <thead> <tr> <th></th> <th>2019年度</th> <th>前年度比</th> <th>2013年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CO₂排出量</td> <td>38,148 t</td> <td>▲1.0%</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>ごみ量</td> <td>2,337 t</td> <td>1.1%</td> <td>▲11.8%</td> </tr> <tr> <td>電気使用量</td> <td>58,894,820 kWh</td> <td>▲3.4%</td> <td>▲17.3%</td> </tr> <tr> <td>都市ガス使用量</td> <td>3,189,617m³</td> <td>▲0.1%</td> <td>▲5.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 実行計画の進捗状況</p> <p>(1) 実行計画の2024年度の目標 CO₂排出量 2013年度比▲25% ごみ量 2013年度比▲15%</p> <p>(2) CO₂排出量、ごみ量、電気・都市ガス使用量の推移 （2013年度の数値を100とした場合の各年度の数値の推移）</p>  <table border="1" data-bbox="406 1462 1422 2002"> <caption>2013年度～2019年度の実績推移（2013年度を100とした場合の数値）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>CO₂</th> <th>電気</th> <th>都市ガス</th> <th>ごみ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>2014</td> <td>103.9</td> <td>96.9</td> <td>92.9</td> <td>95.3</td> </tr> <tr> <td>2015</td> <td>103.0</td> <td>96.4</td> <td>89.7</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>93.9</td> <td>93.9</td> <td>89.5</td> <td>88.7</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>105.0</td> <td>91.7</td> <td>85.7</td> <td>91.4</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>104.1</td> <td>94.4</td> <td>85.6</td> <td>87.3</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>103.0</td> <td>94.3</td> <td>88.2</td> <td>82.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>2024年度のCO₂排出量削減目標 75 2024年度のごみ量削減目標 85</p>		2019年度	前年度比	2013年度比	CO ₂ 排出量	38,148 t	▲1.0%	3.0%	ごみ量	2,337 t	1.1%	▲11.8%	電気使用量	58,894,820 kWh	▲3.4%	▲17.3%	都市ガス使用量	3,189,617m ³	▲0.1%	▲5.7%	年度	CO ₂	電気	都市ガス	ごみ	2013	100.0	100.0	100.0	100.0	2014	103.9	96.9	92.9	95.3	2015	103.0	96.4	89.7	93.2	2016	93.9	93.9	89.5	88.7	2017	105.0	91.7	85.7	91.4	2018	104.1	94.4	85.6	87.3	2019	103.0	94.3	88.2	82.7
	2019年度	前年度比	2013年度比																																																										
CO ₂ 排出量	38,148 t	▲1.0%	3.0%																																																										
ごみ量	2,337 t	1.1%	▲11.8%																																																										
電気使用量	58,894,820 kWh	▲3.4%	▲17.3%																																																										
都市ガス使用量	3,189,617m ³	▲0.1%	▲5.7%																																																										
年度	CO ₂	電気	都市ガス	ごみ																																																									
2013	100.0	100.0	100.0	100.0																																																									
2014	103.9	96.9	92.9	95.3																																																									
2015	103.0	96.4	89.7	93.2																																																									
2016	93.9	93.9	89.5	88.7																																																									
2017	105.0	91.7	85.7	91.4																																																									
2018	104.1	94.4	85.6	87.3																																																									
2019	103.0	94.3	88.2	82.7																																																									

4 電気事業者の排出係数

区が電力を調達している事業者の排出係数（50音順）

（排出係数：1kW発電する際のCO₂排出量 単位kg）

事業者名	2017	2018	2019
エネサーブ株式会社	0.500	0.645	0.707
株式会社Fパワー	0.467	0.513	0.513
JXTGエネルギー株式会社	0.459	0.509	0.494
東京電力エナジーパートナー株式会社	0.474	0.462	0.462
丸紅新電力株式会社	0.485	0.522	0.542

5 2019年度ごみ量の考察

2018年11月からこれまで保護者が持ち帰っていたおむつを、保育園で廃棄することになったため、保育園のごみ量が前年度比約17%増えたことが影響し、前年度よりも増加した。

6 今後の方針等

電気使用量、都市ガス使用量は、前年度より微減し、基準年度も下回っている。CO₂排出量は基準年度比で増となっているが、電気事業者の排出係数の影響を受け、必ずしも区の実績が反映されない面もある。

この結果を区内に周知し、省エネ、ごみ減量の意識を高めていくとともに、引き続き総合的、計画的に取り組を進め、実行計画の削減目標の達成を目指していく。

令和 2 年度第 2 回足立区環境審議会資料

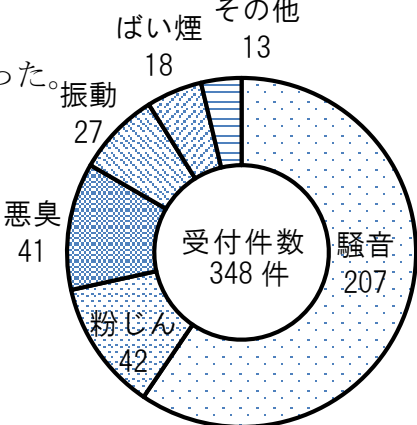
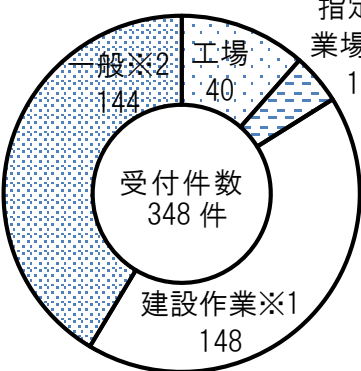
件 名	「地球環境フェア 2020」と「あだち環境かるた大会」の中止について
所管部課名	環境部環境政策課
内 容	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、下記 2 つのイベントを中止する。</p> <p>1 地球環境フェア 2020</p> <p>(1) 開催日：令和 2 年 12 月 5 日（土）・6 日（日）</p> <p>(2) 会 場：シアター 1010</p> <p>2 あだち環境かるた大会</p> <p>(1) 開催日：令和 3 年 1 月 24 日（日）</p> <p>(2) 会 場：島根小学校体育館</p> <p>3 今後の方針等</p> <p>オンライン配信等、代替となる非集合型の環境問題啓発事業の実施を検討する。</p>

令和2年度第2回足立区環境審議会資料

件名	3R・食品ロス削減推進月間パネル展示等について
所管部課名	環境部ごみ減量推進課
内容	<p>本年10月の3R・食品ロス削減推進月間については、新型コロナウイルス感染症の影響により自宅で過ごす時間が長くなった生活にスポットを当て、3Rの推進および食品ロス削減に向けた啓発を実施する。</p> <p>1 パネル展示</p> <p>(1) テーマ「これからの、Rなくらし」 新型コロナウイルス感染症やレジ袋有料化等、新しい生活様式には、3Rや食品ロスの観点が大切である。 買い物から始まり、調理や生ごみの排出に至るまでの一連の流れを3Rや食品ロス削減のポイントを示しながら、啓発する。</p> <p>(2) 期間・場所 令和2年10月1日（木）～10月9日（金）、本庁舎1階アトリウム</p> <p>(3) 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 買い物に出る前は冷蔵庫を確認（在庫を把握し、無駄なく計画的に購入）。 ② マイバッグを持って買い物へ。 ③ 買い物は「エシカル消費(※)」や「賞味期限と消費期限」を意識する。 ※ エシカルは直訳で「倫理的な」「道徳的な」を意味する。「エシカル消費」とは、モノやサービスを購入する際に、地球環境や社会、地域、人に配慮したものを選択する消費行動のことをいう。 ④ 野菜の切れ端も上手に調理し、作ったものは残さず食べきる。 ⑤ 貰い物、余り物は「もったいないレシピ」で使い切る。 ⑥ 生ごみは、水切りして減量化する。 <p>(4) もったいないレシピ 食品ロスの削減につながるレシピを料理研究家に作成してもらい、紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① フードドライブで出されることが多い食材の活用レシピ ② 冷蔵庫の余り物を活用したサンドイッチレシピ <p>2 3R推進月間キャンペーン</p> <p>「もったいないレシピ」普及の一環として、Rのお店の協力を得て、リサイクル商品の購入や過剰包装を断る等、3R推進につながる取り組みをした区民に対し、レシピとサンドイッチボックスを配布する。</p>

	<p>(1) 開催期間 令和2年10月1日(木)～10月31日(土) 「Rのお店」90店舗</p> <p>(2) サンドイッチボックス</p> <ul style="list-style-type: none">・ サイズ：W165mm×H58mm×D115mm・ プラスチック製で折り畳み可・ 作成経費：660,000円(@220円×3,000個) <p>3 情報発信について あだち広報や区ホームページ、SNS等で広報を行っていく。</p> <p>4 今後の方針等 作成したパネルは、年度内に開催される商業施設のイベント等での設置を依頼する等、有効活用を図っていく。</p>
--	---

令和2年度第2回足立区環境審議会資料

件名	公害苦情相談と環境調査結果について						
所管部課名	環境部生活環境保全課						
内容	<p>1 公害苦情相談 令和元年度の受付件数は348件であった。</p> <p>(1) 公害現象別受付件数 平成12年度の焼却炉の規制開始以降は、ばい煙の件数が減り騒音が最も多い状態が続いている。</p>  <p>(2) 発生源別苦情受付件数 発生源別では工場・指定作業場の数が20年前のおよそ3分の2まで減少したのに伴い、苦情受付件数に占める割合が減少し、建設作業や一般の苦情が過半を占めるようになった。</p>  <p>※1 建設作業：解体・建設工事に関する苦情 ※2 一般：近隣関係トラブルやカラオケ店舗等への苦情 ※3 指定作業場：産業廃棄物の積み替え保管施設やガソリンスタンド等に関する苦情</p> <p>2 環境調査結果 すべての環境調査で基準超過等はなかった。</p> <p>(1) 大気調査 ア 自動車排気ガス調査概要（各地点1週間×2回測定）</p> <table border="1" data-bbox="459 1854 1487 2065"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査物質</td> <td>浮遊粒子状物質(SPM)、一酸化窒素(NO)、二酸化窒素(NO₂)</td> </tr> <tr> <td>調査地点</td> <td>首都高速中央環状線、環状七号線(3地点)、尾久橋通り、墨堤通り</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	調査物質	浮遊粒子状物質(SPM)、一酸化窒素(NO)、二酸化窒素(NO ₂)	調査地点	首都高速中央環状線、環状七号線(3地点)、尾久橋通り、墨堤通り
項目	内容						
調査物質	浮遊粒子状物質(SPM)、一酸化窒素(NO)、二酸化窒素(NO ₂)						
調査地点	首都高速中央環状線、環状七号線(3地点)、尾久橋通り、墨堤通り						

イ 自動車排気ガス調査

地点	道路	第1回 (5/17~23)		第2回 (12/4~10)		環境 基準
		SPM (mg/m ³)	NO ₂ (ppm)	SPM (mg/m ³)	NO ₂ (ppm)	
扇一丁目	首都高速 中央環状線	0.016	0.011	0.017	0.023	SPM 0.100 mg/m ³ 以下
新田二丁目	環状7号線	0.017	0.019	0.017	0.036	
中央本町五丁目	環状7号線	0.016	0.023	0.016	0.036	NO ₂ 0.06ppm 以下
大谷田三丁目	環状7号線	0.016	0.017	0.017	0.028	
江北六丁目	尾久橋通り	0.019	0.014	0.018	0.031	
千住桜木一丁目	墨堤通り	0.014	0.011	0.017	0.032	

※ SPM(浮遊粒子状物質)：大気中に浮遊する粒子状物質で粒径が10μm以下のもの、
気管に入りやすく健康への影響がある。

※ NO₂(二酸化窒素)：自動車の排気ガスに含まれ、呼吸器に悪影響を与える。

(2) ダイオキシン類調査

夏・冬に1週間調査を実施。

単位：pg-TEQ/m³

年度	鹿浜	竹の塚	東和	環境基準
令和元	0.034	0.027	0.031	0.6以下
平成26	0.051	0.051	0.046	

(3) アスベスト調査

区内南花畑において3日間調査を行った。測定値は平均値である。

ここ数年間は、検出下限値(0.056本)未満から0.28本の間を推移している。(他区調査結果と同程度の値である。)

単位：本/リットル

年度	南花畑1	南花畑2
令和元	0.088	0.11
平成30	< 0.056	< 0.056

(4) 自動車騒音常時監視結果

自動車騒音常時監視は、幹線道路沿いの住宅ごとの騒音レベルを推定し、環境基準を達成している戸数の割合を求める調査である。

区内の国道、都道、首都高速道路11区間を調査した。

環境基準達成率

単位：%

年度	昼	夜	対象戸数(戸)
令和元	98.8	89.0	15,145

※ 年度毎に調査対象区間は異なる。

(5) 河川水質調査結果

区内8河川1用水11地点で年4回調査を行っている。区内河川の水質は、20年前と比較すると大幅に改善された。

下表は、綾瀬川・荒川の生物化学的酸素要求量(BOD)と溶存酸素量(DO)の年平均値である。

表 河川水質調査 年平均値(抜粋)

物質	BOD(mg/l)環境基準5以下		DO(mg/l)環境基準5以上	
	綾瀬川・内匠橋	荒川・鹿浜橋	綾瀬川・内匠橋	荒川・鹿浜橋
令和元	2.5	2.1	7.5	7.7
平成21	3.3	2.2	4.8	6.9
平成11	10	4.0	1.9	4.9

※1 生物化学的酸素要求量(BOD):水中の有機物を分解するのに必要な酸素の量、値が少ないほど水質がよい。

※2 溶存酸素量(DO):水中に溶け込んでいる酸素の量、値が大きいほど水質がよい。

3 今後の方針等

各調査の詳細については、東京都の調査結果等と併せて環境事業データ集(令和元年度実績)として12月にホームページに掲載する予定である。